

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第 4 号）について（送付）

本年の果樹カメムシ類越冬世代成虫の発生推移について取りまとめましたので、防除指導に利用していただくようお知らせします。

記

1. 発生状況：

- 1) 本年のチャバネアオカメムシの越冬成虫数（県内 16 地点の合計）は 6 頭（平年 7.1 頭）と平年並で、昨年（13 頭）より少なかった（平成 26 年 3 月 17 日付け技術情報第 18 号）。
- 2) チャバネアオカメムシの合志市における予察灯誘殺数は、5 月第 3 半旬頃から平年より多くなり、フェロモントラップの誘殺数は 6 月第 1 半旬に平年を大きく上回った（図 1）。
- 3) ツヤアオカメムシの 5 月第 1 半旬以降の誘殺数も合志市の予察灯およびフェロモントラップで平年より多く、宇城市松橋町のフェロモントラップでは誘殺数が極めて多かった（図 2、表 1）。
- 4) 天草市におけるチャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップの 5 月第 1 半旬以降の誘殺数は平年より少なかった（表 1）。
- 5) 病虫害防除員等への聞き取りによると、各地でカメムシ類の発生は確認しているが、6 月第 1 半旬の時点で被害は認められていない。

2. 防除対象作物：果樹（カンキツ類、ナシ、カキ、モモ等）

3. 防除上注意すべき事項：

- 1) 越冬調査、予察灯、フェロモントラップ調査から、本年の越冬世代成虫密度は地域により差がみられ、天草市では平年比やや少、合志市および宇城市松橋町ではやや多と推測される。
- 2) 越冬成虫密度が地域により差が見られることに加え、カメムシ類の発生時期や飛来量は園地による差も大きく、同一園内でも局在するので、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。なお、カメムシ類は夜になると園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。
- 3) 被害が認められた場合は直ちに防除を実施するが、薬剤の使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

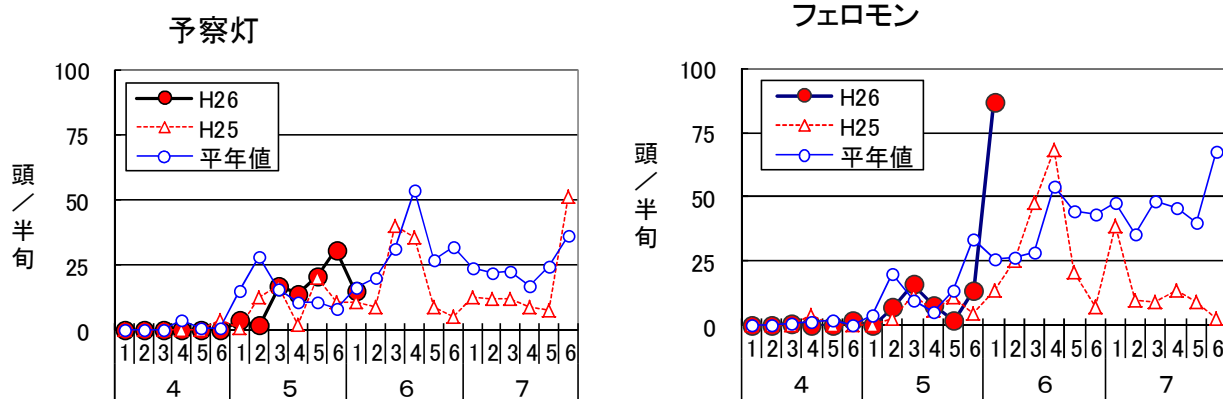


図1 合志市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：農研センター）

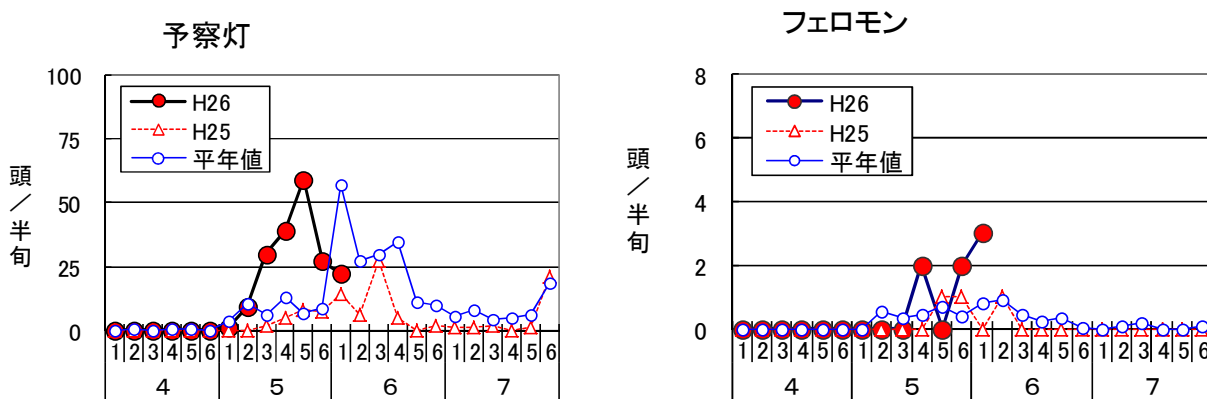


図2 合志市におけるツヤアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：農研センター）

表1 各地域におけるカメムシ類の誘殺状況（5月第1～6月第1半旬合計）

地域名	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	予察灯	フェロモントラップ ^o	予察灯	フェロモントラップ ^o
合志	104 (106)	134 (111)	187 (105)	7 (3)
松橋	欠測 (112)	255 (274)	欠測 (168)	984 (161)
天草	53 (561)	37 (330)	308 (626)	56 (71)

単位：頭、（ ）は平年値

熊本県病害虫防除所
 （生産環境研究所）
 担当：清永
 TEL 096-248-6490